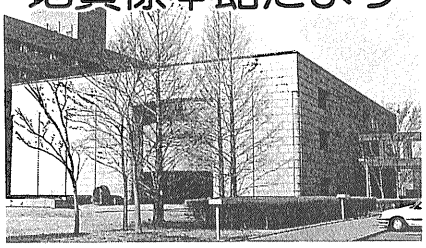
地質ニュース486号，70-71頁，1995年2月
Chishitsu News no. 486, p. 70-71, February, 1995

地質標本館だより



No. 35

夏休みの行事より

学校が夏休みになる7-8月は，どこの博物館でも忙しく活気のある時期です．今回は，1994年8月を中心に，夏期の地質標本館の活動の様子をお届けしたいと思います．

博物館実習

どこの博物館も夏休みの時期は，生徒さん方を中心に多くのお客さんでにぎわいますが，実は裏方にも学生さん方が入る時期であるのをご存知でしょうか？　近年の博物館ブームで，大学では学芸員資格取得のためのコースを選択する学生さんが増えてきていますが，夏休みはその人たちが博物館の実務を体験する，博物館実習の時期でもあるのです．

地質標本館は，文部省管轄の博物館ではありませんが，相当する施設ということで，所の技術指導の一つとして，博物館実習生を受け入れております．1994年夏には群馬大学ほか3大学からの4人の学生さんが，8月最後の一週間を実習に過ごしました．実習生の皆さんは，館のスタッフの指導のもと，博物館の実務を日替わりで体験しました．実習内容は，受付や団体見学予約の対応，そして16ミリフィルムの映写などの，来館者の目につくことだけではありません．お客の途切れた合間には，ショーケースのガラス戸を開けて展示換えをし(写真1)，展示室の裏(?)の研究室では佐藤喜男主任研究官と一緒に石膏にまみれて化石のレプリカ作りをするなど，展示に関わる実務も体験しました．実習生の皆さんはこういった仕事に，裏方の仕事の苦労の一端を感じたようです．さらに午後4時30分の閉館後には，一日を実習日誌にまとめる仕事が待っています(写真2)．

写真1　地質標本館第4展示室での鉱物標本展示換えの模様．ショーケースの中は狭く，足場が悪く，美術品級の重い標本の移動はそう簡単なことではない．

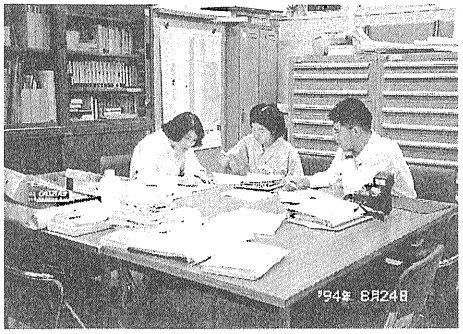


写真2　実習の一日が終わって，控え室で日誌をかく．

このような実習生の受け入れは，地質標本館にとって短期的には貴重なマンパワーとなりつつあります．しかし受け入れ側も，実習メニューをあらかじめ用意したり，大学に対して講評を報告するなどの義務を負うわけですから，なかなか楽ではありません．今後とも大人数の受け入れは難しいかも知れませんが，未来の学芸員に地球科学への親しみを持ってもらうことが，長い目でみて地質調査所の社会的理解につながるとの立場から，博物館実習を続けて行きたいと考えております．

夏休み岩石・鉱物・化石相談および関連行事

恒例となりました夏休みの岩石・鉱物・化石相談が，今回は8月26日(金)に開かれました．当日は，“秘蔵の”収集品を抱えた子供達などで，朝からにぎわいました．当日の参加人数は35人にとどまりましたが，前後に10人から相談が持ち込まれ，合計件数は前回並となっております．

写真3　恒例の相談日の風景．海外からの標本に，専門家も回答にやや難儀．「庭先に，道ばたに，転がっていた石」を持ち込む人たちも相変わらずおりますが，専門家にとっても答え甲斐のある試料をかかえてくる人たちが，このごろは増えてきております．

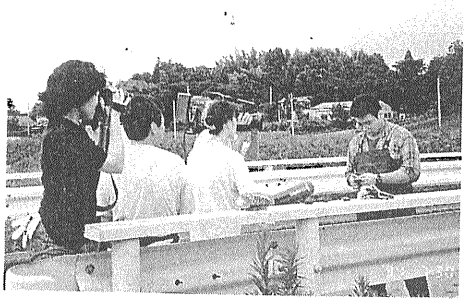


写真4　本日のヒーロー牧野道彦君(千葉大学生)．例年に比べ不作の年でしたが最後の頃にナウマン象の臼歯を見つけ，ケーブルTVのインタビューを受けているところ．

今回の相談の特徴は，相談者の持ち込む試料の量にありました．朝一番でやってきたつくば市の小学生は，お父さんの海外出張についていって採集してきたのでしょうか，ヨーロッパ・アルプス地域を中心に海外産の鉱物標本をどっさりかかえてきました(写真3)．相談を受けた研究者も，日本とやや違う地質を反映した標本の内容に目をしろくろ．しまいにはX線の助けをかりての回答となっておりました．この小学生は，ここ数年，相談日の常連でした．こういったところに今回で12回を数える夏休み地質相談の定着ぶりを見る思いがいたします．この中から，明日の地球科学を担う人材が育ってくれればというのが，相談を受けるスタッフの願いでもあります．この夏休み地質相談の模様は，NHKや毎日新聞をはじめとするテレビや新聞で，広く報道されました．

このほか，工技院筑波研究支援総合事務所主催の科学教養講座とタイアップした化石クリーニング体験が，地質相談の前日(8月25日)に行われました．科学教養講座は，例年は夏休みに入って間もない7月中に行われておりますが，今回は時期をずらして8月に開かれました．参加者のうち16人が，元所員の尾上亨博士の指導のもと，栃木県塩原産の植物化石に挑戦しました．この化石クリーニング，夏の来館者の間ではたいへん好評でしたが，今回は諸般の事情から科学教養講座参加者に限っての実施となりました．このチャンスを逃してしまった皆さん，この夏に期待してお待ち下さい．

また，同じく恒例となった「ナウマン象をさがす会」の採集会が，7月30日に，学園都市の自然を親しむ会との共催で，花室川にて行われました．地質標本館の利光誠一主任研究官の指導のもと，つくば市・土浦市の近郊から参加した多数の小・中学生と父兄は，熱気と湿気のあふれる花室川の河床で象化石を探しました(写真4)．

以上の行事についてさらにお知りになりたい方は，下記までお問い合わせ下さい．

地質標本館：0298-54-3751

(地質標本館

奥山(楠瀬)康子，小沢泰子，遠藤祐二)

追記；1月17日に発生した兵庫県南部地震で犠牲となった方々に心から哀悼の意を表しますとともに，被災された皆様にお見舞申し上げます．地質標本館では，兵庫県南部地震対策室の広報活動に協力し，この地震についての速報展示を，標本館中央ホールで行っております．